

第4学年1組 国語科学習指導案

平成28年11月10日(木) 第5校時

- 1 **単元名・教材名** この物語「〇〇な話」、どんな話?—読後感とその理由を考えよう—
「プラタナスの木」 椎名誠 (光村図書4年下)
「白いはなびら」 (教育出版3年上)
「ピータイルねこ」 岡田淳 (三省堂3年)
「走れ」 村中李衣 (東京書籍4年上)

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態と教材観、指導観

本学級の児童は、物語教材「白いぼうし」の学習で、場面の移り変わりに注意しながら、中心人物の心情を想像し、人物像を考える活動に取り組んだ。さらに、シリーズになっている登場人物「松井さん」が出てくる本を並行読書し、中心人物の人物像をより豊かに想像するという活動にも取り組んできている。また、物語教材「一つの花」の学習では、「どうして『一つの花』という題名なのか」という課題の解決に向けて、「一つ」という言葉に着目したり、場面を比較して考えたりすることを通して、叙述を基に想像して読むことを学んできた。今後は「物語を読む観点」を増やし、一人一人の感じ方には違いがあることに気付くことができるようになることを目標としている。

本教材「プラタナスの木」は、中心人物の会話文が一つもなく、会話から直接心情を想像することができない作品である。したがって、「中心人物とは、自分から積極的に話したり行動したりしている登場人物」という本学級で学習した原則は適用されない。しかし、中心人物についての記述が多いことから、児童は中心人物が誰かということとはたやすく理解できるだろう。「中心人物とは、会話文がなくても、より詳しく心情が描かれている登場人物」というものに、本学級で学習した原則をアップグレードしていくことになる。会話や行動の少ない作品から、中心人物の心情を想像するためには、「誰によって語られている作品なのか」という「視点」という読みの観点が必要になってくる。中心人物の視点で描かれている情景描写を通して、中心人物の心情を想像していくことについては、「ごんぎつね」で学習している。この作品の中で変わるものは、中心人物の「プラタナスの木への認識」であり、対人物である「おじいさん」の言葉が、中心人物のプラタナスの木への認識を変えていく。この「変わる」は、今までのような明確な心情の変容といったものではなく、今までなかった認識が新たに加わってくるという意味での「変わる」ととらえている。中心人物の会話文が無くても、中心人物の視点を通して描かれた叙述を基に、心情を想像することが指導できる教材である。

指導に当たっては、小学校学習指導要領の第3学年及び第4学年の「C読むこと」の言語活動例「A物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」を通して、指導事項「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙

述を基に想像して読むこと」を重点的に指導するものである。具体的には、「語り」から中心人物の心情を想像していく活動を設定している。この活動を通して、だれの「視点」から語られているかという読みの観点を獲得、または確認し、情景描写に着目しながら中心人物の変容をとらえて読むことをねらいとしている。

本単元では、中心人物の変容をとらえて読むために、以下のように学習を進める。

「プラタナスの木に対する認識の変化」という共通の課題に対し、根拠となる叙述を示しながら考えていく。中心人物である「マーちゃん」と対人物である「おじいさん」、そして題名にもなっている「プラタナスの木」の関係を人物関係図型の図で可視化しながら、つながりを考えていくようにする。また、交流を通して、「そんなところからも、中心人物の気持ちは想像できるのか」「同じところを根拠としているけど、想像したことが違う」ということを経験させ、考えを広げる。さらに、「自分の考えたことより、友達の考えたことのほうがぴったりくるかもしれない」といったように、考えを深めるようにしていきたい。そのために、共感的な学び合いの雰囲気の中で、共通の課題に対して考えが検討されるような交流の場を設定する。終末には、「プラタナスの木」と同じ「視点」で描かれた物語を複数読むことを通し、中心人物がどのように変容した話か、ということをとらえて読む言語活動を設定した。本単元では、教科書教材を学んだ後で初めて複数の教材を読む。「視点」に着目して教材を読み、中心人物の変容をとらえることを通して、身に付けた力を活用できる場を設定する。さらに、次の単元の物語教材で学ぶときも、読みの観点を生かして読むという長期的な活用を場を意識させることで、思考力・判断力・表現力を高めていくようにする。特に思考力の育成のため、本単元では思考スキルとツールを用いることを手だてとする。

3 単元の目標

- (1) 語り手の言葉や位置をとらえ視点を意識しながら、進んで作品を読もうとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 語りを手がかりに視点人物の心情を想像することができる。
(読むこと)
- (3) 中心人物の心情の変容を、「変容前」「変容後」「きっかけ」を区別してとらえることができる。
(読むこと)
- (4) 言葉には、心情と景色を同時に表現しているものがあることが理解できる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準 (省略)

5 指導と評価の計画 (評価は省略)

時間	学習活動	学習内容

0	<p>○感情を表す言葉をマッピングで集め、観点別に整理する。(読後感を表現する語彙を増やす) (思考スキル「分類・整理する」)</p> <p>○既習事項を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本単元に入る前にしておくことを、「0時」として記載している。 読後感を表現するための語彙を増やす活動は、業前の時間などを使って日常的に行う。 既習事項の確認は、本単元で特に重要とするものを挙げている。</p> </div>	<p>○マッピング</p> <p>○既習事項の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心人物 ・対人物 ・語り(視点) ・情景描写 ・心情の変容 ・物語の基本構造 ・場面設定(時、場所) ・クライマックス場面
1	<p>○「プラタナスの木」を読み、感想を書く。</p>	<p>○感想の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に残ったこと ・もっと知りたいこと ・不思議に思ったこと
2	<p>○全ての感想を読み合い、どの部分に着目している感想が多いのかを整理する。 (思考スキル「分類・整理する」)</p> <p>○多く着目している部分を参考に、読みの課題を設定する。</p>	<p>○多様な考えの交流</p> <p>○考えとその根拠の結び付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想の分類 <p>○課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想が集中している部分からの課題設定
3	<p>○物語の設定をとらえる。 (思考スキル「関係づける」)</p> <p>○「語り手」の「視点」をとらえる。</p>	<p>○物語の設定の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人数 ・中心人物 ・登場人物の人から <p>○語り手(視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰の視点から語られているのかということ
4	<p>○中心人物「マーちゃん」がどうなっていく物語か、おおまかにとらえる。 (思考スキル「関係づける」)</p>	<p>○物語の基本構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰が、どうなった ・変わったことは何か
5 本 時	<p>○「新たな価値観を獲得」し始めていると思われる部分を探す。 (思考スキル「比較する」)</p> <p>○マーちゃんとおじいさん、プラタナスのつながりを図に表す。 (思考スキル「関係づける」)</p>	<p>○中心人物の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変わる前との比較 <p>○語りから心情を読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情景描写(心情と景色) <p>○登場人物どうし(ある対象と)の関係</p>

6	<p>○「おじいさんの言葉」に関係し、マーちんの内面が詳しく語られている部分を全文から探す。 (思考スキル「比較する」)</p> <p>○マーちんとおじいさん、プラタナスのつながりを図に表す。 (思考スキル「関係づける」)</p>	<p>○語りから心情を読むこと ・情景描写（心情と景色）</p> <p>○文と文の結びつき</p> <p>○伏線 ・キーワード ・繰り返しの語</p> <p>○登場人物どうし（ある対象と）の関係</p>
7	<p>○読みの課題に対する自分の考えを書き、考えを伝え合う。</p>	<p>○課題に対する自分の考えの構築</p> <p>○自分の考えの説明 ・三角ロジック型（考え・事実・結び付け）を使った説明</p> <p>○多様な考えの交流</p>
8	<p>○読後感とその理由を考え、伝え合う。 (思考スキル「多角的にみる」)</p>	<p>○課題に対する自分の考えの構築</p> <p>○自分の考えの説明 ・三角ロジック型（考え・事実・結び付け）を使った説明</p> <p>○多様な考えの交流</p>
9	<p>○複数の物語作品を読む。</p>	<p>○語り手（視点）</p> <p>○語りから心情を読むこと</p>
10	<p>○選んだ作品の中心人物の変容を読む。</p>	<p>○物語の基本構造 ・誰が、どうなった ・変わったことは何か</p> <p>○中心人物の変容</p>
11	<p>○単元のふり返しをする。</p>	<p>○身に付いた力を意識すること</p> <p>○転移可能な読みの力の確認 ・語り（視点） ・情景描写 ・伏線</p>

6 本時の学習指導（本時5 / 11時）

(1) 目標

○語りを根拠にして、中心人物「マーちん」の心情の変容について、いつ変わり始めたのかをとらえることができる。（読むことウ）

(2) 評価規準

ウ 読む能力
語りから中心人物の心情を想像し、心情の変容をとらえて読んでいる。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時の学習を想起し、中心人物の心情のおおまかな変容について確認する。			2
2 中心人物の心情を想像するために必要なことを確かめる。	○語りから心情を読むこと	・「ごんぎつね」での学習を想起し、会話がなくても中心人物の気持ちは、語りから想像できることを確かめる。	3
3 本時の学習課題をつかむ。	○学習課題の設定	・中心人物の心情の変容をとらえる際には、「変容前」「変容後」「きっかけ」を区別してとらえることが必要になる。「きっかけ」をとらえるためには、「いつ(どの頃)」をとらえることが手立てとなる。「いつ」変容し始めたかをとらえられるようにする。	3
マーちゃんの心情が動き始めたのはいつか？			
4 中心人物の心情が多く描かれている部分を選ぶ。	○語りから心情を読むこと ○文章全体を読むこと ○クライマックス場面の把握	・心情が変容しているということは、心情について詳しく描かれている部分が存在する。心情が詳しく語られている部分を見つけることができるようにする。 ・「語り手がそう思って語っている人物はだれ？」と問うことで、中心人物＝マーちゃん、であり、語りの中にマーちゃんの心情が描かれていることをとらえられるようにする。	5

<p>5 ⑮と⑯を比べて、中心人物が変容したのはどちらかを選ぶ。</p>	<p>○言葉の比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・⑮でも、おじいさんの顔を思い浮かべている。しかし、変容しきってはいない。「しだいにぼんやりしていく」や「いつしか深い眠りに落ちていった」という言葉に着目し、根拠としてあげられるようにする。 	<p>10</p>
<p>6 ⑯の中で、中心人物が変容したことを暗示している情景描写を探し、中心人物の心情と関係づけて説明する。</p>	<p>○情景描写</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「台風は通り過ぎていた」 ・「青く晴れ上がった空」 ・「今は静かに太陽の光をあびている」 ・「鳥やせみはうれしそうに鳴き始めている」 <p>○言葉の比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ごんぎつね」の学習を想起させ、語り手が語る景色には、中心人物の心情が表れていることがあることを確かめる。 ・景色の描写を探し、それが何を意味しているのかを考え、中心人物の心情と関連させて考えるようにする。 ・⑮と⑯の情景描写を比較し、中心人物の心情と関連づけるようにする。 	<p>10</p>
<p>7 中心人物が「思い出した」ものは何かを文章から探し、中心人物が悟ったことは何かをとらえる。</p>	<p>○文章全体を読むこと</p> <p>○指示語</p> <p>○接続語の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中心人物が変容した「きっかけ」だと思う部分を⑯から探す。また、それを引き起こしたのは、どんな出来事があったからなのかを考える。 ・「思い出した言葉」とは何かを、文章全体から探す。 ・「それがはっきりと見える」の「それ」とは何を指すのか、また、「だから」という接続語の役割を考えることで、中心人物が悟ったことをとらえることができるようにする。 	<p>10</p>

		<p>評価場面</p> <p>〈評価規準〉ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子 ・記述の考察 <p>〈手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えがもてている児童には、「マーちん的心情が動き始めたのはいつか」という問いに、「出来事」と「きっかけ」、「悟ったこと」という観点を入れて、自分の考えを説明できるようにするよう伝える。 <p>(例)</p> <p>マーちん的心情が動き始めたのは、台風がおそってきた後で、その時、おじいさんの言葉を思い出した。その言葉から、一本一本の木とその根が、ずっと昔から森全体を守り、祖父母の家だって守ってきたことを悟った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもてない児童には、「マーちんが思い出したものは何か?」「おじいさんの言葉とは、どんなことか、⑨から探そう」と、<u>直接的に</u>問うようにする。 	2
<p>8 課題に対する考えをまとめる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・マーちん的心情が詳しく書かれ始めているのは⑮⑯であり、⑮と比較することで、⑯の方ではっきりと変容がみられることをまとめる。 	